

令和5年
(2023年)
2月

ゆりー



米原区の人口及び世帯数
令和5年1月末現在
戸数 1,116 世帯
人口 2,689 人
男 1,323 人 女 1,366 人

・区の行事予定・

- 2月**
7日(火) ミニ・デイサービス
10日(金) 千尋会定例会
10日(金) 審議委員会
*コロナの状況を見て判断
- 3月**
7日(火) ミニ・デイサービス
10日(金) 千尋会定例会
10日(金) 審議委員会
*コロナの状況を見て判断

☆☆ 新春グラウンドゴルフ、スカットボール大会結果発表 ☆☆



グラウンドゴルフの部

男性の部

- 1位 松元 雄二
2位 園崎 盛夫
3位 和宇慶 亮士
ラッキー7賞 和宇慶 宏

女性の部

- 1位 和宇慶 文子
2位 山城 光子
3位 比嘉 清美
ブービー賞 和宇慶 アイル

ホールインワン賞

- ・松元 雄二
- ・和宇慶 亮士
- ・園崎 盛夫

スカットボールの部

- 1位 照屋ツネ子 2位 宜野座絹子 3位 高山さおり(敬称略)
*大会へのご参加、ありがとうございました。

今月の徴収金

区費	1,000
防犯灯負担金	150
緑の羽根募金	200
合計	1,350円

ありがとうございます

- ・3班の福地心一様(浄福寺)より、飲み物の寄贈がございました。
- ・みくに(株)様より飲み物の寄贈がございました。
- ・すずらん保育園様より飲み物の寄贈がございました。
- ・1班の小谷良輝様より、ご芳志がございました。
- ・4班の石川清勝様より、ご芳志がございました。
- ・4班の石川信子様のご家族様より、ご芳志がございました。



なかよくしたほうがいい (赤道小1年、こたにりょうご)
せんそうは、きけんなので、やめてください。せんそうは、人のいのちをうばうので、やめてほしいです。ロシアとウクライナみたいに、せんそうをおこさないでください。ぼくは、せかい中で、なかよくしたほうがいいとおもいます。

令和5年1月17日付け琉球新報に掲載された投稿文である。投稿したのは、米原5班に住む小谷良心(りょうご)君。お母さん、おばあちゃん、そして、担任の伊藤先生によると、友達いっぱい、元気いっぱいのもとも明るい男の子だ。「いろんなことに興味をもち、毎朝の登校時には、道端の木々や花などをしっかりと愛でながら登校してくる」なかなかの風流人でもあるようだ。また、授業での読み聞かせ「かわいそうなぞう」については、戦争のため非業な死を遂げたゾウ達をとおして戦争のむごさを感じ取り、人間だけではなく、動物も命を失うということに幼い心を痛めているようである。

一方、アニメが大好きで、特にドラゴンボールの「悟空」がお気に入り。体の前に突き出した両手から「かめはめ波」を放出し悪を倒す正義が大好きで、ウクライナを攻めるロシアのプーチン大統領にクリーンヒットさせて争いごとを止めたいと云うりょうご君。戦争を引き起こす大人のエゴとその惨劇を止めようとする純粋な子ども心に学ぶこと大である。



あ り が と う



救急医療情報キット配布について

うるま市では、高齢者や障害者に対し、急病・事故・災害の緊急時における不安を軽減するため、救急医療情報キットの配布を行っています。

●救急医療情報キットとは？

健康に不安を抱えている高齢者や障害者の方の安全・安心を確保するために「かかりつけ病院」「緊急連絡先」「持病」「診察券のコピー」「健康保険証のコピー」などの情報を専用の容器に入れ、自宅の冷蔵庫に保管しておくことで、万一の緊急事態に迅速な医療活動が行えるよう備えておくものです。

- ・・・ **イメージ** ・・・
- ① 119番通報します。
 - ② 駆け付けた救急隊員が、シールを目印に救急医療情報キットを取り出し、情報用紙等を確認します。
 - ③ 情報を参考に、救急隊員や医療関係者などが医療活動を行います。

*詳しくは公民館まで！ ☎973-3431

☺ どうーちゅいむにー

- タイガーマスク殿
- 貴方の気持ちがよくわかる
- コロナ禍の子ども一同
- マスクは体の一部
- 沖縄県・那覇市殿
- 我われは頭を抱えています
- 訓練反対派
- ミサイル避難訓練で頭おおう
- コロナウイルス殿
- インフルエンザ
- コロナ5類へ引き下げ
- お待ちしております

自治会費納入 ありがとうございます

区民の皆様、公民館窓口での月々の納入、まとめ払いをして頂き大変感謝申し上げます。引き続き、感染症拡大防止と班長様の負担軽減の為、公民館窓口での納入にご協力をお願いいたします。

納入された自治会費は・・・

- ・防犯灯の電気代・修繕費
- ・公民館の維持管理費
- ・敬老会、清掃活動などの自治会の諸行事
- ・自治会長・書記会計給与などに運用されています。

新春グラウンドゴルフ・スポレク大会
令和5年1月8日(日)



はちうくーだよ、全員集合〜!!と広報誌、看板、区内放送で呼びかけると約50人が参加。好天に恵まれ、グラウンドゴルフ、スカットボールを楽しみました。日向ぼっこに熱中する方もいましたヨ〜。(このような機会をもっと増やして欲しい、どんぐり公園だけではなく、公民館横の広場でも気軽に楽しみたいという方、前もって公民館にご連絡ください。直ぐにセット致します。)

〜へー、そうだったのか! (パート56) ~
ーサトウキビ作りの機微ー

あれよあれよという間に如月(きさらぎ)はもう目の前。ウサギのひとっ飛びで今年も早1ヶ月が過ぎ去ろうとしている。ぼやぼやしていると置いてけぼりを食らいそうだ。

毎年この時季になると、県内各地のウーヅバタキーでウーヅの収穫におおわらわの生産農家の姿を目にするようになる。作業着に身を包み、鎌や外国俳優の名前のようなヒーラディン(ナタ)を手にして、雨が降ろうがどんな寒波が押し寄せようが、予定の積み出し日に間に合わせなければならない。収穫するのはサトウキビだが、決して甘い話ではないのである。



30~40前までの米原では、サトウキビを作っている農家は、今の10倍以上あったと記憶している。農家に限らず、常日頃は他の仕事に就いている人でも、サトウキビを作っている人は随分いた。ウーヅ畑も今とは比較にならない程にあちらこちらに見られた。そ

のため収穫期になると、家族だけでは足りず、親戚や友人達までをも頼み込んでの大部隊がキビ畑に集結。自分の背よりはるかに長いウーヅを切り倒し、葉を落とし、尖頭部を切り落とす。慣れるまではどの作業もなかなか難儀である。お昼どきになると女性軍が作ったソーキ汁などを全員で輪になり、集めた枯葉や束ねたウーヅに座って食べる。人生のキビを感じるひと時である。

トラックへの積み込みも容易なことではなかった。クレーンで積み込む今の方法と異なり、昔は束ねたキビ(15~20キロ)を一人一人が肩に担ぎ、トラックの後部に立てかけた板のはしごを登って積み込む。当時、トラック運転手だった7班の奥間政仁さんがナタを片手に、次から次へと担ぎ込まれるキビを「すーらー(キビの頭の部分)、てーらがー(平良川方面の意)」、「とー、なまねーすーらー赤道ーやー(今度は

赤道方面)」と指示しながらトラックの荷台を一杯にしていく。今は、7トン以上の積み込みはNGだが、昔は12~15トンでもお構いなしに積んでいた。結果、上手く積んでないトラックから走行中にキビが滑り落ちたりもした。これもまた、今では分からない古き良き時代のキビであろう。

同じサトウキビであっても、白糖のもととなるザラメを作る工場を分蜜工場と呼び、伊是名島や久米島などの離島8島にある。黒糖を製造する含蜜工場は粟国島、西表島を始めとするこれまた8つの離島にあるという。本島での分蜜工場は、うるま市川田のゆがん製糖だけになってしまった。サトウキビ産業の往時を偲ぶことも段々難しくなってきたが、3月の半ばまで続く沖縄の風物詩を楽しむこととしようか。



〜へー、そうだったんだー〜